



片貝中学校同窓会会報

第3号 2003年1月

片貝中学校 ☎・☎0258(84)2030

http://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/

E-mail katachu@city.ojiya.niigata.jp



同窓会長

浅田 正平

会員の皆様、新年明けましておめでとございます。

昨年は、片貝町にとって待望のバイパス道が開通し花火筒モニュメントも造られ各同窓会の玉送り出発地としても利用されたいようです。また今年もNHK朝の連続ドラマ「こころ」でも片貝が、全国に向け放映されるとの事ですから町民としては、うれしい話題が盛沢山の年となる事でしょう。

母校片貝中学校の生徒達は、教職員・PTA・町民・東京片貝会の皆様方の強力なご支援のもと健全に育まれており、心より喜んでおります。

昨年の同窓会定期総務委員会（各級友会々々長参加）におきまして、「今後の片貝祭について」報告と提言をさせていただきました。片貝祭にとって各級会の節目の記念事業は、大きな催事となり、多くの会員に感動と思いを残しております。

しかし諸問題も多く、その問題を、どの組織が、誰が、どうして解決に向けて取組んでいくのか？明確にされておらず、あ

やふやな状態で悪い習慣として残されている現状も否定できません。祭のパワーは、若者達の英気による力が無ければ、成り立ちません。しかし、「成人いじめ」は、絶対許せません。

成人を玉送りの最中に町内支部が、いじめ通きぬなどという悪習伝統は、この片貝には存在しないのです。21世紀の片貝町を担う青年諸君に、今年からは「成人いじめ」なるものは、ありませんと強く約束をしていたきたたく、あえてこの紙面を、使わせていただきました。

各級友会に「和」をもたらすこの片貝祭を楽しみながら、各会の力を「より良い片貝町」創りのために結集して行きたいと願っております。

今年も同窓会活動にご理解とご協力を深くお願い申し上げます。会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



我ががエース

片貝中学校長

山田 俊彦

先般、東京片貝会・母校を励ます会主催で、講演会を開いていただきました。今年は、山梨大学医学部助教授の吉井新平様（つどい会）から、小児の心臓

手術にかかわるご講演をお聞きしました。

つどい会の山村さんが、以前から「今年うちの会のエースが講演してくれる」と誇らしげに話をされていました。

また、講演会の当日は同級生全員に電話をして、会社を休んで講演を聴きに来いと指令が飛んだそうです。そういう会があつてこそ、引き継がれた同窓会組織があつてこそ、誇りをもって母校の後輩の前に立てるんだなと思えました。

同窓祭を終えて

第一二回片貝中学校同窓会実行委員長

つくし会

小宮山元章

新年明けましておめでとございます。

昨年十月に開催させていただきました第一二回同窓祭はつくし会と成友会が幹事となり、三月頃から話し合いを重ねてきました。今回は若者から年配の方まで興味があるであろう「片貝祭・花火」にスポットを当て歴史的な内容で講演をしていただきましたが、講師の吉井和夫さんには無理なお願いを快くお引き受けいただき心より感謝いた

しております。また、ご協力頂きました皆様方には本当にありがとうございます。

今後もこの催しは続いていくと思いますが、さらに発展していく事を期待しています。

教育講演会で感動を共に

東京片貝会

母校を励ます会会長

本田 秀幸

東京片貝会では会員のご寄付を元に毎年小・中学校に図書を贈り喜んでいただいています。

教育講演会も東京片貝会の先輩が「郷里の為に何か役立つことをしよう」と始まり、既に二十回になりました。この片貝で生まれ育った先輩が母校で豊かな経験を語り、将来の片貝を担う小・中学生に何かの感動を与えろ！感動は共に拝聴する我々にも、また講師自身にも大きいものと思えます。最近五十歳を迎えた同級会に講師を推薦いただいておりますが、どの学年も頑張っている人ばかりで、本当にすばらしい！同窓会の皆様にも是非聴講をいただき、感動を共に致しましょう。



記念講演

片貝の花火祭りについて
「文化財になった片貝の木遣りと古式玉送り」

講師 片貝町伝統芸能保存会指導員

吉井 和夫

片貝の花火についてですが、片貝には昔から花火好きが沢山いて、約二百四十年前から花火が造られ、明治二十四年には日本ですべて三尺玉を打ち揚げ、片貝花火の一大興隆期となりました。このような中で明治十四年、旧消防組織を基に祭りの六組（い組・に組・三組・て組・五組・ま組）が誕生し、各町内で神社に花火を奉納する玉送り行事が行われるようになりました。この事に依って、町内の人達みんなが花火の有志として金を出し町内組の花火を揚げる事が出来、片貝の浅原神社の祭りは「花火祭り」として一段と有名になりました。結婚祝い等のコメント付花火は、片貝煙火協会が発足した昭和三十七年頃からのようです。さて木遣りですが、道中木遣りは文化文政時代より、大工棟梁送りなどに歌われて来たと言われています。「本町二丁目のく」で始まる奉納木遣りは、元々江戸木遣りの一つで江戸時代に鎌倉節として全国的に流行ったのが片貝祭りに取

り入れられたものです。奉納木遣りの歌詞がなぜ長いかと言うと、かつて「ヌキ仕掛」という祭りの最後を締めくくるとある花火がありましたが、この取り付けに時間がかかって、木遣りの元々の歌詞が足りなくなり、歌の間に「一にや乙の大日如来」など一から十までの数え歌を加え長くしたと言われています。「しやぎり」は、古くからあった「みちびき」や「片貝おけさ」と各地に伝わる曲の中から、神聖な玉送りにふさわしい重厚でゆったりとした曲が取り入れられました。なお今流行の「坂のぼり」は昭和になってから片貝に入ってきたと言われ、当初は小若専用の曲でした。また明治十六年には、各町内六組の半纏も江戸火消しの装束を参考に作られました。片貝の先人達は江戸文化の華でもある花火・木遣り・火消しの三点セットを取り入れ玉送り行事を創り出し、祭りの中核にしてみました。私見ですが今後の祭りについて、賑委員は町内の責任者として

町内会長を中心に組織し、青年達と共に正常化に努める事が大切だと思えます。それから厄祓いなどの玉送りのしやぎりは「みちびき」、「おけさ」等の曲を指定すれば、小若も練習した伝統の曲を本番の玉送りで演奏でき、道中木遣も歌う事が出来るでしょう。また片貝に本格的な屋台を三台位造り持ち回りで使えば経費の節減になります。その場合、資金集めや維持、管理運営までしっかりとした計画を立て推めるべきです。一番大事なのは祭り実行委員長を中心にこれらの問題点について町内会や青年達と協議する場をつくる事だと思えます。

昨年、片貝の木遣りと古式玉送りが、小千谷市の民族文化財風俗慣習部門第一号として指定を受けました。玉送り行事を大切にすることが片貝祭りの価値観にも繋がります。片貝の先人達が築いてきた素晴らしい花火祭りに誇りを持ち、より良い形で継承されますよう、皆さん大いに頑張ってくださいと思います。

(文責 吉原正明)

わが同級会

三十三歳、四十二歳、
六十歳をむかえる
同級会を紹介します。

鳳凰会の生い立ち…？

鳳凰会会長

安達 留美

私達鳳凰会は、片貝中学校第四十回卒業生です。

四十回なので、英語でフォーティーですが、鳳凰の鳥は幻の鳥とも云われ、黄金の羽を広げて大空を舞う姿が印象的な鳥でもあります。そんな鳳凰のように私達も大きな夢を持って羽ばたいていこうという想いを込めて、この名前を付けました。

亥年・ねずみ年生まれの鳳凰会は、猪突猛進型とチヨロ型が多いせい、保育園から中学校に至るまで、先生方には迷惑のかげつばなしでした。ある先生からは、「ろくなもんじゃねー」と怒鳴られたこともあった私達

ですが、部活に関しては全身全霊を込めて打ち込み、全員が一丸となって市内大会優勝はもちろん、さまざまな大会で功績をおさめました。

中学校卒業後は進学等でバラバラになりましたが、六年後の成人を迎えた時には、再び同級生全員が集まり、一致団結して盛大な花火を上げることが出来ました。

早いもので、私達もこの秋には三十三歳厄祓いの歳を迎えることとなります（ひえ〜！）。

その中で、昨年度に立ち上げたホームページ上では、会員それぞれ近況報告や育児相談、独身者のあがき等で日々盛り上がりつつあります。普段会えない同級生達とこのような形でコミュニケーションをとることが出来るのは、とても嬉しいことです。

今年の三十三歳厄祓いの時には、約十年ぶりに会員六十九名が顔を合わせる事になります。その日を楽しみに、この片貝町に残っているメンバーで力を合わせて、準備を進めているところですが、

祭り当日には、町民の皆さまに元氣な鳳凰会の姿をお見せできることと思います。

今後の鳳凰会に乞う御期待！

四十二才本厄祓を前に

みつわ会会長

吉原 裕二

私も、みつわ会は、片貝中学校 創立三十周年卒業生 会員数八十四名の同級生達であります。

去る十一月三日、平成十五年 度、本厄祓い塞の神行事、浅原神社秋期大祭本厄祓い奉納花火へむけ、事務所開きを行わせて頂きました。会員達皆で紅白の餅を突き、お飾りをお迎えし、祝詞を上げ、事務所開きを祝い、会員の安全を祈り、来る行事の成功を祈願致しました。

片貝町に代々、受け継がれてきた行事を一つ一つ、執り行う毎に片貝町の伝統と仕来りの重みを感じています。又、それらを守り、変えなければならぬ事は、考えながら、継承して行かなければ成らないのでは無いのかと考えています。

四十二才という歳を迎えた我が同級生達は、少し顔の面積が広くなってきた者、頭の上が少し心細く成ってきた者、大分白い物が多く成ってきた者、それを染めている者、目尻の小じわが目立ってきた者、親と格好が似てきた者、など皆それぞれに

自分の歳(喜びや悲しみ)を重

ねてきたのだなと思います。ま

だまだ若いと思っていたのにも

う四十二! 人生の約半分位でし

ようか、過ぎて行ってしまう

ました。本当に私達同級生は四十

二才なのでしょうか? 何かまだ

大人に成りきれていない様に思

うのですが、それでも我が同級

生達は、社会、地域、家庭など

において、重要なポストを占め

る存在に成ってきているのです。

よく見ると、皆の回りからオー

ラが輝くのが分かって頂けるも

のと思えます。今、私達みつわ

会、同級生一同は、四十二才本

厄祓い行事に向けて行動を起こ

している最中です。個々の個性

の強い集団と思われやすい、み

つわ会では有りますが、一人一

人それぞれが与えられた仕事を

的確にこなす、エキスパート達!

それらの力を結集して一つの

事にあたらうとする、みつわ会

同級生一同の力は、目を見張る

ものがあると思えます。私達、

みつわ会の本厄祓い行事がどの

様に行なわれて行くのかは、ま

だ分かりませんが、我がみつわ

会、同級生の力を御覧頂きたい

と思えます。どうぞ宜しくお願

いいたします。



還暦を迎えるにあたって

陽光会会長

阿部 尚

待望の片貝バイパスも開通し、片貝町も少しづつ活性化をしていくような気が致しております。かねてより新聞等で報道されております、今春スタート予定のNHK連続テレビ小説「こころ」の舞台の一つとして片貝町が登場する事が決まり、先頃ロケが始まったようであります。片貝の花火や祭の様子が放映される事により、我片貝町を全国に広くアピールする絶好の機会にな

るものと思われます。

昭和十八年、同十九年生れの

私共「陽光会」も、「こころ」の

放映にあわせ、本年還暦行事を

迎える年齢となり、年月の経過

の早さに、驚いている昨今であ

ります。昭和二六年に片貝小学

へ入学し、同三七年に片貝中学

を一六二名で卒業し、今までに

十名の方々が不幸にも物故され

ております。昨年の三月に還暦

行事に向け、第一回総会を開催

し、以後諸先輩方の御助言や、

資料提供をお願いし、東京陽光

会と連携を図りながら、着々と

準備を進めている所であります。

次に陽光会としての年間行事で

ありますが、年一回の同級会の

外には、特別な行事は行ってお

りませんが、会員個々において

は、片貝謡曲会や、三味線、太

鼓、舞踊、伝統芸能保存会等々、

巾広い分野において活躍されて

いる会員も多数おられるようで

す。還暦を迎え、徐々に退職者

も出てくる中で、会全体として

今後何をやらなければならぬ

のか、あるいは何を目標に何を

したいのかを真剣になって考え

てみるもよい年頃であると痛感

しております。定期的に体力維持増進の為歩け歩け運動であるとか、又地域の中に溶け込んだ



ボランティア活動等々、皆で知恵を出し合う事を本気で問題提起する事も、これからの高齢化社会に、まさに足を踏み入れようとしている私達に課せられた大きな課題であると認識しております。最後に今年の秋期大祭に際し、還暦行事を行うにあたり、片貝町協議会、片貝まつり実行委員会、片貝町煙火協会、そして町民の皆様方には一かたならぬお世話になる事と思いますが、何卒宜しく御指導くださる事を切にお願いを申し上げます。して終文とさせていただきます。

